



新潟大学附属図書館の節電対応について

竹谷喜美江*

新潟大学学術情報部学術情報サービス課長

I. はじめに

去る3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の大災害を引き起こしました。この震災により被災をされた多くの方々に、心よりお見舞い申し上げます。

新潟大学附属図書館（旭町地区の医歯学図書館および五十嵐地区の中央図書館）では、被災された方々に対する支援と被災地の早期復興を願い、被災地の方々への本学同様の図書館サービスの提供、義援金の募金、被災地の小学校への図書館什器（雑誌架、ビデオデッキ等）の提供など、様々な取り組みを積極的に行っています¹⁾。また、震災の影響により予測される東北電力管内の電力不足への対応として、いち早く節電への取り組みを開始しました。このコーナーでは、特に当館の節電対応についてご紹介いたします。

II. 国や県、大学の動き

東日本大震災により東北電力(株)および東京電力(株)の電力供給量が被災前に比べ大幅に減少したことを受けて、政府の電力需給緊急対策本部では、4月8日に「夏期の電力需給対策の骨格」を、5月16日にはこの骨格を踏まえた具体的な対策を示した「夏期の電力需給対策について」を策定し、各機関に通知しました。本通知によると、新潟大学等の機関に対する今夏の使用最大電力に係る目標需要抑制率は15%と定められています²⁾。

一方、新潟県では、「ピークカット15%大作戦」実施を決め、4月13日と27日の2回にわたりトライアルを行い、県内全域に協力を求めました。このトライアルは、今後の大規模な計画停電をできる限り避けるため、1日の中で電力使用量が多くなる夕方から夜にかけて計画的に節電を行うことによりその効果を検証するというものです。

新潟大学では、政府の意向を踏まえ、大震災直後に設置した災害対策本部において、夏期の電力需給対策について検討を行い、大学全体の削減目標値（想定値）を定めるとともに、新潟県の「ピークカット15%大作戦」のトライアルへの協力を決め、大学HPやパンフレットにより、全学の教職員や学生への協力を呼びかけました³⁾。さらに、節電の取り組みをより一層徹底するために、2度の「新潟大学ピークカット・ピークシフトトライアル」（5月23日～27日と6月13日～17日）を行いました。このトライアルの結果を踏まえ、6月24日に「新潟大学節電実行計画」を策定し、夏期（7月1日～9月9日の平日9時から20時）の節電数値目標を、対前年使用量の「マイナス20%」（政府の需要抑制目標「マイナス15%」に大学努力目標の「マイナス5%」を加えた数値）とし、OA機器、照明、空調、その他の機器等の使用に関しての具体的な節電対策を全学に明らかにしました^{4),5)}。

III. 附属図書館の取り組み

附属図書館では、一連の大学の節電方針に基づき、震災直後から日中の窓際の消灯、蛍光灯の間引き、ディスプレイの照度削減等、できる限りの節電対策を実施しています。4月13日に行われた新潟県の「ピークカット15%大作戦トライアル」では、中央図書館の電力使用



*Kimie TAKEYA : 〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐二の町8050.
Tel.025-262-6225 k-takeya@lib.niigata-u.ac.jp

(2011年8月19日 受理)

